

一般質問・質疑 通告一覧

1 植村 美洋 議員 6月24日(火) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 文化 (1) 文化財の管理・活用について ①現在、小峰城跡の三重櫓の見学は無料となっているが、清水門の完成後は有料としてもよいのではないか、考えを伺いたい。 ②南湖公園の湖の水草が異常に繁殖しているように見える。以前にもこのようなことがあったと聞かすが、今年は南湖公園の観光客も多いので除去する必要があると思うが、考えを伺いたい。 ③南湖公園の西側に外来種の「メタセコイア」の木が18本あるが、周囲の松の木や背景の那須山脈との景観に違和感を覚えるという声が多い。伐採するなどの対策が必要と思われるが、考えを伺いたい。 2. 教育 (1) 水泳の指導について ①現在、全国的に水泳の授業については、見直しの流れにある。昨年6月の定例会において、このことについて質問をした際に、検討するとの答弁があったが、その後どのように具体的に検討されたのか、伺いたい。 (2) 新たな奨学金制度の設立について ①市民から市の教育振興に役立てて欲しいという目的で、多額の寄付金が寄せられているが、これを有効に活用するために、医学部進学者に特化した奨学金制度を設立してはどうか、考えを伺いたい。 3. 二十歳の集い事業 (1)「二十歳の集い」の在り方については、式典に加えて、アトラクション等を実施するなど、より若者に沿った形にしてはどうか、考えを伺いたい。	小 小 小 小 小 中

一般質問・質疑 通告一覧

2 遠藤 公彦 議員 6月24日(火) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 指定管理者制度について (1) これまでの指定管理者制度の導入による成果と課題、今後の制度運用の方向性について伺います。 (2) 本市が指定管理者制度を導入している施設について、指定管理業務の実施状況を点検し、評価するモニタリングの導入とその公表について市の見解を伺います。	中 中
2. 空家対策について (1) 特定空家等について ①本市の空家等のうち「危険なので早期の対応が必要な空家」について、白河地域・表郷地域・大信地域・東地域別の戸数について伺います。 また、特定空家等の戸数について伺います。 ②本市において、令和7年8月に特定空家等の行政代執行が予定されていますが、行政代執行に至った経緯と、除却工事費及び費用の徴収について伺います。 ③特定空家等に対し、行政代執行や略式代執行を行った場合、所有者が除却工事費について支払い能力がない場合は、どのように対処するのか伺います。 ④今後、特定空家化の防止をどのように行っていくのか伺います。	小 小 小 小
3. 東風の台運動公園（東地域）について (1) 施設の有効活用について ①利用者のニーズをどのように把握しているか伺います。 ②東風の台運動公園施設の過去3年間の延べ利用者数の推移を見ますと、ゲートボール場の利用者が全くいない状況になっていますが、今後の活用について、市はどのように考えているのか伺います。	小 小

一般質問・質疑 通告一覧

3 戸倉 宏一 議員 6月24日(火) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 本市の里山の管理及び森林資源の利活用について (1) 山林資源の利活用について伺う。 (2) 竹林の管理について伺う。	中 中

一般質問・質疑 通告一覧

4 永山 均 議員 6月24日(火) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 広域行政について (1) 奥会津連携事業について伺う。	中
2. 人口減少問題について (1) 人口減少問題において、若い世代の進学・就職による市外への転出が大きく影響していると思われるが、若い世代の人口流出抑制のための施策について市の考えを伺う。	中
(2) 大信地域振興計画について ①令和4年4月に人口減少率の大きい大信地域・表郷地域が過疎地域の指定を受けたことにより、令和4年度から令和7年度までの4年間を前期計画とする白河市過疎地域持続的発展計画が策定されました。これと同時にとりまとめた大信地域振興計画が策定されたところであるが、その計画にある事業の実績について伺う。	小
②令和8年度から令和12年度の5年間を後期計画とする、新たな白河市過疎地域持続的発展計画が本年度策定されますが、大信地域の振興策の元となる大信地域振興計画に位置付ける事業は、住民の意見や要望を反映させた事業が望まれるため、事業の選定方法等について伺う。	小

一般質問・質疑 通告一覧

5 室井 伸一 議員 6月24日(火) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 将来を見据えた行財政運営について (1) 健全な行政経営について伺う。 (2) 今年度新設された、行政経営課の所管事務について伺う。 (3) 行政経営課の令和7年度の主な取組について伺う。	中 中 中
2. 自転車の交通安全と、来年4月1日に施行される改正道路交通法（交通反則通告制度）について (1) 自転車の交通安全を促進するための取組について伺う。 (2) 学校における、自転車の交通安全を促進するための取組について伺う。 (3) 自転車通学生徒用の歩道マップを作成することについて伺う。 (4) 児童生徒による自転車運転の危険運転が確認された場合の、学校の対応について伺う。	中 中 中 中
3. 避難所について (1) 国際基準と呼ばれるスフィア基準について伺う。	中
4. 学校のバリアフリー化について (1) 白河市の現状と、今後の対応について伺う。	中

一般質問・質疑 通告一覧

6 佐川 琴次 議員 6月25日(水) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 表郷、大信、東地域の標識について (1) 消防関係の標識は消火栓、防火水槽が設置してあり、水道関係の標識は、空気弁、仕切弁、排泥弁が設置されています。これらの標識は大部分が劣化していて、文字の判読がままならない状態や、途中から折れていて草むらに眠っている状態の標識もあり、地域の方が草刈り作業を行う際に支障を来した例もありました。 標識本来の役割が果たされていない状況であります。合併して20年が経過していますが、いまだ旧3村の標識が設置されています。このままの現状で果たしてよいのでしょうか。白河市の標識として設置すべきと思いますが、市の考えを伺います。	中
2. デイサービス利用者への食事提供について (1) 令和7年4月1日より、白河旧市内、表郷、大信、東の4か所の食事の提供が変更になりました。委託会社が、諸事情により撤退したとの事です。 デイサービスでは、令和6年度末まで委託業者のスタッフが、センター内で調理して、利用者にあったかい料理を利用者のニーズに合わせて提供していました。しかしながら4月1日からは、弁当に変更になり、保温箱に入れて市内から配達されますが、今まで同様に、あったかいご飯食が食べられません。 デイサービスは白河市社会福祉協議会が運営していますが、このような状況について、白河市としてどの程度把握されているのでしょうか。 また、利用者さんに従来同様の食事提供できるよう、白河市と社会福祉協議会との密接な連携が必要と思いますが、併せて市の考えを伺います。	中
3. 東地域公共施設環境整備事業業務委託について (1) 現在東地域では、公共施設環境整備事業に作業員が委託雇用され、主に市道脇の環境整備、法面の木や枝の伐採作業をしています。また、町内会で作業できない危険な箇所環境整備に努め、地域住民の方から感謝されています。 この事業は表郷、大信地域も同様に実施されていると思いますが、東地域では、作業をしている方は、70歳を過ぎた方です。自分の住んでいる地域に少しでも貢献したいその思いで頑張っておられます。 作業員の健康不安や高齢化、人手不足等の問題も懸念されることから、今後の対応について伺います。	中
4. 2026年ふくしまデスティネーションキャンペーンに向けた白河市の観光振興策について (1) 白河市として2026年ふくしまデスティネーションキャンペーンの取組を伺います。	中

一般質問・質疑 通告一覧

7 大木 絵理 議員 6月25日(水) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 農政について (1) 農業法人参入促進事業のこれまでの経緯と、今年度の事業進捗状況を伺う。また、来年度以降の計画も合わせて伺う。 (2) 農業法人の誘致先の候補地について伺う。 (3) 本市の農業の実態と、オランダ型農業の農法について、市はどのように考えているのか伺う。	中 中 中
2. 松くい虫航空防除事業について (1) 航空防除で使用された薬剤名と、散布に伴う注意点について伺う。 (2) 漏出時の措置として、環境に対する注意事項を守って散布されているか伺う。 (3) 散布後の天候による薬剤効力への影響、並びに雨天によって薬剤漏出の有無について伺う。 (4) 今後のアカマツ保全方法について伺う。	中 中 中 中
3. 小中学校の給食着について (1) 各小中学校の給食着はどのような取り扱いをされ、児童生徒が着用しているのか伺う。 (2) 現状の取り扱いにおける利点と課題について伺う。 (3) 近隣市町村の給食着に関する取り扱いについて、市の考えを伺う。	中 中 中

一般質問・質疑 通告一覧

8 大竹 功一 議員 6月25日(水) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 敬老事業改正について (1) 敬老事業を見直すこととした理由と、見直し内容について ①敬老事業を見直すこととした理由と、市民から意見を聞くため委員会等を設置したことについて伺う。 ②敬老祝金の改正内容について伺う。 ③敬老会の開催や記念品については、どのように考えているのか。	小 小 小
2. 福祉行政について (1) 幼児教育・保育施設運営の現状について ①待機児童の現状について伺う。 ②保育士等の確保状況について伺う。 (2) 介護人材の確保について ①高齢者人口が増えていくのに対し、介護人材が不足している現状にあるが、市ではどのような対策をしているのか伺う。 ②市内には、介護人材を育成するしらかわ介護福祉専門学校があるが、介護職を目指す学生に対し、どのような支援をしているのか伺う。	小 小 小 小
3. 市内ボランティア清掃について (1) 現状と課題について ①白河地域（特に谷津田川沿線及び阿武隈川沿線）の現状について伺う。 ②課題と解決に向けた取組について伺う。	小 小
4. 動物愛護行政について (1) 現状と課題について ①市への苦情と相談の状況について伺う。 ②不妊去勢手術の現状と推進について伺う。 ③市民への動物愛護に対する意識向上について伺う。	小 小 小

一般質問・質疑 通告一覧

9 吉見 優一郎 議員 6月25日(水) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. スポーツ行政について (1) 白河市総合運動公園における体育施設等の全体的な改修について伺う。 (2) 中央体育館の改修について伺う。 (3) 市民プールを改修後の利活用の中で、小学校の授業での活用について伺う。	中 中 中
2. 市内のごみの回収作業と集積場所について (1) 現在のごみの集積場所の決定方法について伺う。 (2) 現在、歩道上に設置されている集積所で様々な問題が発生しており、その解決策について伺う。 (3) 体の不自由な高齢者や、障害のある方に対応する福祉サービスについて伺う。	中 中 中
3. 市内の小・中学校のトイレについて (1) 現在、市内の小・中学校に配備されているトイレの内訳について伺う。 (2) 改修や修繕をする際の対応について伺う。 (3) 和式トイレへの抵抗感や、古くて汚らしいトイレへの衛生面での不安があり、学校で用を足せない児童・生徒への対応について伺う。	中 中 中
4. 県南外国人アシストセンター開設について (1) 開設に至るまでの経緯について伺う。 (2) センターの事業内容と今後の活動の効果について伺う。	中 中
5. ネーミングライツへの取り組みについて (1) ネーミングライツを行うことで、民間企業の参入や税外収入の獲得、施設利用者への広報、利用促進等、様々な利点が考えられるが、これまでの検討経過と今後事業展開について伺う。	中

一般質問・質疑 通告一覧

10 柴原 隆夫 議員 6月26日(木) 質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 生産を抑制してきた「減反」農政について (1) 「供出米」と減反政策について 米は食糧管理制度（食管制度）のもとで、国が全量を農家から買い上げる「供出米」制（これ以外に売買される米は「ヤミ米」）であったが、パン食等の普及などで米の需要が減ると、国は「供出米」を買い上げよりも安値でしか売れなくなり、赤字が常態化しこの供出米に多額の税金が投じられるようになりました。 そこで 1971 年に米の作付面積を抑える減反政策が導入され、1993 年の冷夏による凶作（平成の米騒動）で中国、タイから主食用米が輸入され、1995 年に食糧管理法が廃止され、新たな食糧法のもとで米の流通が自由化され、同年備蓄米制度を創設し、2018 年減反政策の廃止を掲げるも、奨励金により小麦や飼料用米への転作を促し、主食用米の生産量を抑える減反政策は維持されてきました。 元気の出ない、意欲をそぐ減反政策は長年にわたり継続され、農業従事者の高齢化が少しずつ少しずつ進行し、それと並行して、担い手不足を招く結果となってしまいました。1970 年時に約 466 万戸あった米農家戸数は、2020 年には 70 万戸と、実に約 6.5 倍の 400 万戸もの戸数が減ってしまいました。直近 20 年間だけでも6割減となっております。離農する農家に歯止めをかけることができず、集落の農業従事者が消滅する懸念は現実のものとなってきました。 長年にわたり行われてきた生産調整政策を、どのように評価しておられるでしょうか。 (2) 国民の「命の綱」である備蓄米の放出と、「米」の緊急輸入について 昨年の夏、各地のスーパーから米が消えた「令和の米騒動」が、今年は米の品薄感により米価が高騰し、その対応策として備蓄米の放出が行われております。令和の米騒動は「新米が出回れば解消される」と、今回の歴史的な高騰は「米の流通が目詰まりしているから」と釈明され、政府の見通しは楽観的であり、危機感は小さいものでした。 農林水産省の統計では、2021 年から生産量が消費量を下回り、23 年産で一気に広がり、661 万トンの生産量に対し、消費量は 705 万トンに達しました。米の生産を抑える事実上の減反政策の限界が浮き彫りになりました。 本来、米価は市場で決まるものですが、今回の備蓄米の放出は例外的な措置としてやむを得なかったとしても、緊急輸入を行うなど過度な介入は決して好ましいことではありません。 農協などの集荷業者から小売店へ届くまでの流通経路が多様化し、その実態が見えづらいことも、米価急騰の原因と指摘されております。随意契約前の一般競争入札による備蓄米は、6 月第 2 週のマスコミ報道では、いまだ 25%しか店頭に出回ってないといひます。米だけでなく全ての品目で物価が高騰しております。米価急騰の原因の徹底した検証を行い、今後の農政への展望を見据えた道筋を示すことが何よりも大切です。 凶作や災害に備えた国民の「命の綱」である備蓄米を放出し、それでも下がらなければ緊急輸入すると明言しております。果たして、コメの価格の高止まりを抑えること	中 中

が、国内でほぼ自給できる唯一の米を緊急輸入しなければならないほど「国家の緊急事態」になっているのでしょうか。 備蓄米はいつ来るかわからない凶作、災害の備えとして、1995年に創設されたものです。残りの備蓄米はわずか11万トンです。 もし今、南海トラフ地震が起きたら、有事が発生したらどうなるのでしょうか。現に、昨年8月の南海トラフ地震臨時情報が出ると、「買いだめ」が各地で起こり、「令和の米騒動」が起きております。また、近年の異常気象による米の不作を常に予測しておかねばなりません。 12億もの人口を抱える中国では、2年から3年は持ちこたえられる食糧の備蓄体制を整えております。日本はわずか2カ月程度です。食料安全保障が唱えられておりますが、危機管理への意識の違いがくっきり現れております。このことは、依然として自給率は3割台の低いままで改善されてないことにも現れております。 以上のことから、凶作や災害に備えた国民の「命の綱」である備蓄米を放出し、それでも下がらなければ外国産の米の輸入に頼ることは、食料安全保障からも、自給率を上げることからも、日本の農業の展望を開くことから、好ましいことではないと考えます。国内で、ほぼ自給できるのは唯一の米だけです。 このことについて、どのように捉えておられるのでしょうか。	
2. 岐路にたつコメ政策について	
(1) コメの生産コストを下げる農地の集約（大規模）化について 2018年に減反政策は廃止されましたが、奨励金により飼料用米への転作を促し米価の生産調整は維持されてきました。米価の急騰の要因となった主食米の生産を抑えるこれまでの事実上の減反政策を検証し、コメ政策の転換の議論が必要となっております。 現在、コメ作りの展望として農地を集約（大規模）化し生産性を上げ、余ったコメは輸出するというのが議論されております。	
①本市の集積農業の現況について 農地の集積とはどのようなことでしょうか。また、本市の農地の集積率はどのようになっているのでしょうか。	小
②農業規模と適正価格について 小規模、中規模、大規模の基準はどのようになっているのでしょうか。また、報道されている適正価格の3500円とはどのような内容になっているのでしょうか。	小
③大規模経営者への所得補償と消失の恐れがある集落の農業従事者について 生産コストを下げる努力をした農家に所得補償の導入が検討されております。 本市の集落の状況は高齢化により担い手や後継者不足で離農が進み、農地の集積が加速し、まもなく集落全体の農業従事者が消失する可能性が高い現実があります。 この集落全体の農業従事者が消失する恐れをどのように捉え、その手立てをどのように考えておられるのでしょうか。	小

④IoT、AI、ロボットを活用したスマート農業について 集落農家は田園風景を守ることからも継承が望まれます。しかし、ここまで高齢化が進み、担い手不足が起きている現状では厳しくなっております。 集落の農業はIoT、AIの先端技術を駆使したスマート農業へと改善され、法人化するしか手段はないようです。これには農地の集約化は避けられません。 永年かけて作り上げた集落の農業従事者が消失しないよう生産段階で行政が地域にコミットすることが必要であると考えますが。	小
⑤農地の集約化の課題について 農地の集約による効率化の妨げとなっているのは、所有者の異なる耕作農地が点在していることです。この農地を隙間なく集約することは容易なことではありません。所有者は土地に対して強い愛着があり、また高値での売買を望む等々があって農地の集約が進まない現状があります。また、耕作中の農地もたくさんあります。更に、賃借によるのか売買によるのかという問題もあります。複数の所有者がいる農地を集約するには課題がたくさんあります。集約化における課題について、どのようにお考えでしょうか。 また、適正迅速に集約を進めるには農地は全て国の管理下に置かれ、「農地バンク」のようなものが必要になってきますが、このような動きはあるのでしょうか。	小
(2) 本市の作付け状況の見込みについて 米価の歴史的な高騰で、国が供給を調整する事実上の減反政策の欠陥が浮き彫りとなり、農林水産省は2025年産の主食米の生産量が前年実績比40万トン増の719万トンとなる見込みを発表しております。米価高騰に伴う経営判断としての増産、又は備蓄米や飼料用米からの切り替えに踏み切る農家が増えると思われます。 本市の作付けは前年比でどのくらいの見込み増となるでしょうか。また、備蓄米や転作奨励による飼料用米の作付面積、遊休農地（耕作放棄地）は農地全体でどのくらいの割合でしょうか。	中

一般質問・質疑 通告一覧

11 深谷 弘 議員 6月26日（木）質問予定

質 問 事 項 ・ 要 旨	項目
1. 急発進抑制装置の設置費用補助事業について （１）ペダル踏み間違い急発進抑制装置認定制度（高齢運転者による交通事故防止対策の一環として、自動車メーカー等の求めに応じ、乗用車のペダル踏み間違い急発進抑制装置が一定の性能を有していることを国が認定する）に基づき、急発進抑制装置を設置する場合、その設置費用の一部を自治体が補助する動きが広がっている。 この装置は進行方向の障害物を検知し、アクセルを強く踏み込んで衝突する恐れがあると判断すると、警告音等でドライバーに注意喚起するとともに、エンジンやブレーキを自動制御するものです。 ①この設置費用補助を実施している自治体の状況はどうなっているか。 ②設置費用と補助内容について伺う。 （２）市としても、この事業を導入・実施すべきと考えるがどうか。	小 小 中
2. 放課後児童クラブ運営事業について 3月定例会予算審議のなかで、放課後児童クラブ運営事業が外部委託されることがわかった。 （１）当初予算を比較すると、運営を担う「人的体制」が会計年度任用職員主体から外部委託へ変更（シフト）されるようである。 ①事業内容に変更はないと思うが、なぜ外部委託へシフトするのか。 ②外部委託する事業者について説明を求める。 （２）新年度の事業開始から2か月余り経過したが、現状はどうなっているか。	小 小 中
3. 白河市の農業の現状と今後の展望について （１）市農業の現状について ①基本的には、戦後日本経済の発展（方向）のなかで、農業がどのように位置づけられ扱われてきたのかということに収斂（れん）される問題ではないかと思われるが、「令和の米騒動」に見られるように農業がもはや「基幹産業」とは呼べないような深刻な状況になっているのではないか。市農業もその枠内にあると思うが、市農業の現状についてどのように認識しているか。 ②農業の状況を示す主な指標においては、この間、どのように推移してきたのか。 （２）今後、市農業をどのように発展させていくのか ①国における農業の位置づけ、あるべき方向についてどう考えるのか。 ②市として、今後独自の取り組みも含めどのように考えていくのか。	小 小 小 小